

令和6年度「知事と市町長の円卓対話」（木曾岬町）概要

- 1 対話市町名 木曾岬町（木曾岬町長 ^{かとう たかし} 加藤 隆）
- 2 対話日時 令和6年6月18日（火）14時20分～15時00分
- 3 対話場所 木曾岬町防災センター2階会議室
（桑名郡木曾岬町大字源緑輪中）
- 4 視察場所 鍋田川右岸（藤里港）他
- 5 対話項目
 - （1）防災対策について
 - （2）県境の町の一体的な地域づくりについて

6 対話概要

対話項目（1）防災対策について

（町長）

木曾岬町は海拔ゼロメートル地帯で、そのような地帯に位置する町を守るのが河川堤防、海岸堤防であります。その背後地には、日本を牽引するトップ企業（日本の航空機産業等）が集積しており、そこで働く従業員の住宅密集地を背後に控えています。そのため、万が一を考えた時、何としてでも木曾岬の最前線は強化していかなければいけないところです。

木曾川左岸堤防につきましては、一見知事のおかげで前に進んでいるところで、本当に心強いです。また、鍋田川右岸堤防の方に関しても耐震工事を進めてもらっているところで、引き続きお願いしたいです。

木曾岬町防災センター（河川防災ステーション）について、道路に面したステーションは全国で初の施設となっています。役場庁舎については、輪中地帯の教訓をこの庁舎に活かしており、様々な防災機能を配備しております。

防災施設も大切ですが、発災時にすべてを左右するのは情報だと思っています。木曾岬町は、三重県の情報だけではなく、愛知県側の情報も必要です。それらの情報を集め、的確な判断をしていかなければいけません。

また、三重で震度3、愛知で震度4が発生した場合、Jアラートが弥富市の方で鳴るが、それが木曾岬町まで聞こえてきます。町民の皆さまに混乱をきたさないようにしていく必要があります。

何よりも、木曾岬町は県境地であるため、他県との具体的な取組が必要な場所だということを心にとどめておいてほしいです。

防災訓練に関しましては、県の防災対策部にご指導いただきながら取り組んでいるところです。防災に関する協定については、三重県側では、桑名市、いな

べ市、木曾岬町、東員町で、2市2町の協定を結んでいます。

一方で、愛知県側では、木曾川下流河川管内の8市町で「犠牲者ゼロ実現プロジェクト」という連携で取組を行っているところです。このように、木曾岬町では、他の市町とは少し違う（隣接県との）取組をしているというのも一見知事にご理解いただきたいところです。

（知事）

鍋田川右岸堤防、木曾川左岸堤防については、工事に着手し始めて、安心は日々大きくなっていくが、まだ十分ではないです。

昨日（6/17）29市町の首長にお集まりいただき、南海トラフ地震対策の強化に向けた取組方針を作成しました。これは、能登半島地震の気づき・反省をふまえ、南海トラフ地震に応用できる対策対応を追加し、全46項目にまとめ、様々な課題に対応していくものです。

おそらく三重県が全国で初めて作成しました。現在作成したものは「発災当初版」で、「復旧フェーズ版」は9月を目途に作成していきます。

昨日町長より質問のあった、災害時に役場へ登庁できるのは少数だと考えるが、その場合どうすればよいのかという点について、答えは先ほども町長がおっしゃっておられたとおり、情報が重要になってきます。

県は市町への県からのリエゾンである緊急派遣チームを設定しており、主な役割としては、県庁への情報提供、県庁からの指示を受け市町長へアドバイスをします。

そのリエゾンも役場にすぐに到着できるかは分らないです。そこで、町役場職員の方には、各自治会と連絡を取り合い、現場の状況を把握しそれを県に共有していただきたいです。そうすれば、その情報を元に、人命救助に必要な実動部隊である自衛隊・海上保安庁・警察・消防に私から依頼します。

また、海上保安庁とは包括協定を結んでおり、海上保安庁のヘリ等を利用し全体の状況を見て、その情報を町長にフィードバックして対応を進めますので、ご協力いただきたい。

昨日の会議でもありましたが、南海トラフ地震対策として受援体制の強化が重要になってきます。実動部隊、県、他県からの支援を受け入れていただくことになりませんが、受援ということだけ考えると、思考停止してしまい、何もしなくてもいいという考えになってしまいます。

そうではなく、先ほどから何回も言っておりますが、まずは発災直後の情報の収集と共有をしていただくとありがたいです。

町の防災訓練に緊急派遣チームも参加させていただくことで、発災時の対応が早くなると思うのでご協力をお願いしたい。

また、住宅全体の耐震化は費用が掛かるので、県では住宅の一室の安全性を確保する耐震シェルターへの支援も新たに行います。耐震シェルターは約 100 万円で、県は最大 50 万円の補助を設ける。市町の補助金額に合わせて補助を行う制度であり、市町からも補助があれば、さらに住民の負担が少なくなるので、これもよろしく願いたい。

対話項目（２）県境の町の一体的な地域づくりについて

（町長）

町道鍋田川線の通過車両緩和について、愛知県側の名古屋第 3 環状線の道路計画は進んでいますが、肝心の当町と対面する区間の整備計画が未だ進んでおらず、弥富市長と共に愛知県庁の建設部局へ要望しているところですが、三重県からも要請を引き続き願いたいです。

また、県道バイパスについて、一日でも早く国道 1 号線までの延伸をお願いしたいです。

公園整備計画について木曾川左岸の下流域には、具体的な計画がなく、公園整備について具体化していないところです。

また、サイクルツーリズムについて、流域の首長さんが話をしたところ、木曾川下流管内の市町の方でも取り組んでいこうという話が上がりましたので、木曾川の左岸堤防、鍋田川の流域、木曾岬干拓地の河川堤防、緩衝緑地帯を有効活用できないかと考えているところです。このことについて、一見知事のご所見をお伺いします。

（知事）

名古屋第 3 環状線について、木曾岬町と対面する区間の整備計画については、前回の円卓対話でも、町長から一日でも早く整備が進むようお願いしたいとお伺いしました。

それについては、木曾岬町、弥富市、愛知県だけではなく、三重県も入らせていただいております。また、中部地方整備局も関係してくる話ですので、関係機関とも話をしながら、今後も木曾岬町と共に話を進めていきたいと考えています。

町長がおっしゃるように、木曾三川は非常に景観が良く、特に下流の方には海もあり、変化に富んだ景色も観られます。自転車の活用については、国交省が自転車活用推進計画としてサイクルツーリズムの推進を進めているところで、元々は上流だけの取組でしたが下流にもようやく動きが出てきました。

また、桑名七里の渡し公園も令和 10 年代後半を目指して整備が進んでおり、そこもサイクルロードとしての活用もできるとして、併せて木曾岬町周辺のサ

イクルロードとしての意義を訴えかけていくことは大事だと思います。

三重県はインバウンドが少ないです。一方で、欧米、台湾、韓国では自転車を好きな方が多いので、日本の原風景である木曾川を走ってもらうというのは、インバウンドの面で非常に良いことだと思うので、今後、中部地方整備局等と一体となって進めてもらえたら良いと考えています。